

2009年 4月 3日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人アート多摩

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

「みんなのかんたん芸術講座」—障がい者のための美術講座と創作教室

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

美術鑑賞や創作活動は豊かな生活の源となりますが、障がいのある人にとって、美術に親しむ機会は少なく、一般向けの講座・教室等に参加することも難しいというのが現状です。障がいのある人も、一般の人が多くの機会を得ているのと同様に、美術に親しむ機会を得られなくてはならないと考えます。

このプロジェクトは、障がいのある人が美術に親しみ感性を豊かにすることによって、個人の主体的な活力を引き出し、その人らしい自立した社会生活を促すことを目的とします。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

福祉施設、障害者施設など障がいのある人の集まりやすい場所を使用して、芸術講座を行います。

講座は、1～2時間の美術講座と2～3時間の創作教室をセットで行います。

美術講座は、都内や近隣の美術館で開催されている展覧会や作品、あるいは話題となっている美術のトピックスなどについてスライドショーを中心に解説を行います。特に作品の生まれた時代の文化や人々の生活などを含めて解説することで、見るものと作品との関係にフォーカスし、わかりやすく解説します。創作教室は、美術講座で取り上げた作品の技法を応用して、参加者各人のオリジナル作品を制作します。美術講座と創作教室はいずれも専門の講師が指導します。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

参加者が安心できる場所として、特定の施設や作業所に所属しない人たちも日常的に相談等に訪れる国分寺市障害者センターを会場としました。講師を依頼した中近東文化センターは、美術品の展示だけではなく、発掘などを行う研究機関でもあるため、その点の話題も含め、美術に興味のない人にも関心がもたれるようにしました。福祉関係者ではない人の仕事についての理解も深まるよう、学芸員や塑像作家自身についても話をしました。中近東文化センターの宣伝も行い、「行ってみたい」という気持ちを引き出す工夫もし、その結果、希望者で中近東文化センターに行ってみようという方向に向かいました。(障害者センターの事業として検討中)

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

国分寺市障害者センターでの開催は2度目になるため、チラシを配った早い時点から申込の反応がありました。結果的には参加者数は昨年程度でしたが、反応は大きく、美術講座に対する関心もたれつつあるという手ごたえを感じました。また、今回の講座の内容が、中近東の文化・文明ということで、中東の事情が報道されることの多い中、いづらか時事的な要素もあったせいか、中途障がい者、難病や高次脳障害の人たちの参加が多く、美術講座であっても、そのテーマによっては、芸術的な要素から時事的な要素まで幅広く取り込むことができ、多くの人たちから関心を持たれるという可能性を実感しました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

みんなのかんたん芸術講座

中近東の古代文明と楔形文字

講師: 足立拓朗(中近東文化センター附属博物館研究員 学芸員)

制作指導: 渡邊たまえ(テラコッタ彫刻家)

日時: 2008年12月20日 13:30~

場所: 国分寺市障害者センター

参加者: 12名



レクチャー



楔形文字板制作

2009年3月5日 13:30～

創作活動(テラコッタ作品)創作活動続き

甲制作指導:渡邊たまえ

